坂本泰斗（イギリス・アイルランド）

〇はじめに

僕は、2023年8月末に日本を離れ、イギリスへ向かいました。そこで、5ヶ月ほど過ごし、2024年1月にアイルランドに移り、6月1日まで滞在しました。新しい家族、経験とともに過ごした大切な時間でした。以下の文からは、僕が埼玉親善大使として、どのように活動してきたか紹介していきたいと思います。

〇埼玉県PR

イギリスとアイルランドでは、自分の出身地や住んでいる都市に対してとても誇りを持っていました。例えとして、挙げられるのがローカルのスポーツチームです。男女関係なく、みんなが自分たちのローカルサッカーチームを応援していて、まるで自分の家族であるかのように熱心に僕に紹介してくれました。それに負けたくないと思い、僕は浦和レッズについて何度もアジアトップになったことがあり、ファンの熱さはどこにも負けないと熱く語りました。

僕が滞在していた都市で、何か僕のバックグラウンドを利用して活動できることはないかと考え、調べ始めました。そこで、「Sheffield Japanese Play-group & Study-club 」という集会を見つけ、参加しました。僕が主にしていたボランティア活動は、GCSE勉強のお手伝いです。GCSEというのは、イギリスにある14歳から16歳向けのテストで、その年齢のほとんどの生徒が受験するものです。それに日本語が科目としてあり、その受験を目指している子たちをサポートすることでした。そこには、日本語が母国語でない日本の生徒や日本とイギリスのハーフの子たちなど様々でした。授業の一つ

の内容として、埼玉県を紹介するという企画を行いました。位置、特産物、観光地などのクイズを出したり、質問を受けたりして楽しく活動を行いました。

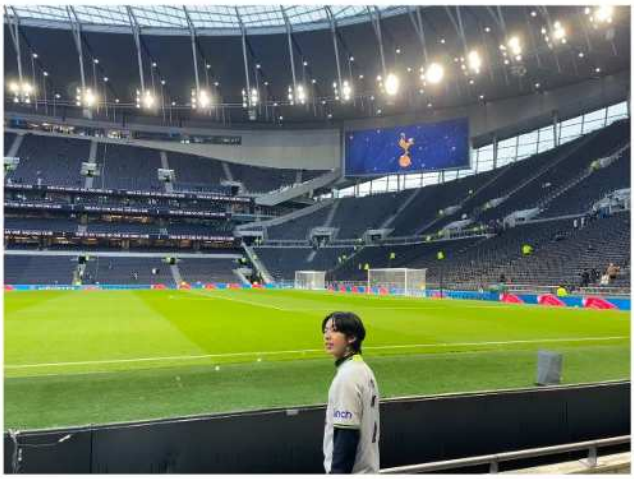
アイルランドでは、10歳のホストシスターとホストブラザーがいて、埼玉と日本に関するクイズをパワーポイントと一緒に毎週一回行っていました。点数を多く取った子に日本のお菓子をあげるようにしたら、二人とも本気になってやっていました。この他に、ホストマザーやファザー、友達なども参加して行う時もありました。これをもとに、お互いアイルランドと埼玉を比べながら、さらに話ができ、自分にとっても良い時間でした。

〇現地での生活の様子

僕が滞在した地域の様子について紹介します。イングランドでは、北部に位置し、大都市の一つであるシェフィールドという都市で過ごしました。鉄鋼業が盛んだったことで、知られています。シェフィールド大学という名門校があり、Sheffield unitedとSheffield Wednesdayという二つの有名なフットボールチームがあります。世界中ではアメリカアクセントが主に使われがちですが、イギリスアクセントはとても魅力的でした。イギリス特有の雰囲気が感じられました。学校は現地校に通い、YEAR12に加入しました。授業は選択科目（3科目又は4科目）で、共学でした。限られた科目で授業数も少なかったので、結構フリーな感じでした。授業がない生徒は学校に残って、勉強をしたり、家に帰ったりしていました。イングランドでは、プレミアリーグというフットボールリーグがとても有名で、ほとんどの人が自分の宗教であるかのように熱中していました。僕もトッテナムというチームが好きで、試合を何回も見に行きましたが、そのスタジアムとファンの雰囲気は忘れられません。

アイルランドでは、西部に位置するMayoという地方のCastlebarという町で滞在しました。イングランドと比べて、田舎で、交通機関のサービスはあまりありませんでした。ですが、人生で一回も経験したことない緑多くの環境で、気持ちよく平和な町でした。アイルランドの人たちはとてもフレンドリーで、一回話すと止まらないぐらいずっと話してくれます。目が合ったら、笑顔で挨拶もしてくれます。また、アイルランド人はとても愛国心が強いと感じることが多くありました。日本よりも小さい国なのにも関わらず、自分

なりの文化を持っています。例えば、St.Patrick’s DayやGaelic footballなどがあります。イギリスからの長期間支配の影響もあり、昔から自国を守ろうとたくさん努力してきた人々なので、アイルランドに対する誇りがあるのです。そのような人たちと会話をしながら、だんだんアイルランドのことが大好きになりました。通っていた学校は男子校で、制服のある学校でした。イングランドよりは、選択科目が多く、充実な学校生活も送りました。最後に、僕のホストファミリーはファミリーシップを大事にしていて、僕を本当の家族のように接してくださいました。そのおかげで、家族が自分にとってどれだけ大切のか学ぶことができました。



〇自分の活動

留学行く前に設定した目標がいくつかありました。その一つが将来にやりたいこと、目標を見つけることでした。日本での忙しい日々から離れ、まったく異なった環境の中で、自分を見つめなおすことができました。現地での僕の友達はほとんどが働いていました。働くのが当たり前のような様子で、大学への考え方、目標がそれぞれ異なりました。そのような人たちを見ながら、少しずつ自分のこれからの時間をどのように使うべきか考えるようになりました。イングランドで再び気づかせてくれた自分のサッカー愛。そして、アイルランドの授業で学習したSports science, Economics, Accountingをもとに、サッカークラブの運営やマーケティングに対する願望を持つことができました。この目標へ一生懸命向かっていくつもりです。

〇終わりに

この度は、埼玉親善大使に任命していただき誠にありがとうございます。帰国して、日本が気楽な環境だからといって、気を緩めず、自分にプレッシャーを与えながら過ごしていきたいと思います。また、埼玉親善大使の任期は留学で終了ですが、これからも埼玉県に住む一人として貢献できることがあれば、積極的に行っていく予定です。